

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4091400137, 社会福祉法人グリーンコープ).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グリーンコープの8つの基本ケアを軸にお一人お一人に寄り添った個別ケアの徹底。介護度が高くなっても寝たきりにならないように配慮し、離床を促し、椅子に座り足を床に付けて食事を摂っていただくようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL (https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kani=true&jigyosyoCd=4091400137-00&ServiceCd=320&Type=search).

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、交通の利便性が良くバス停が事業所の前に在ることで、家族や知人の面会時に利用しやすい。3階建ての複合施設でグループホームは2階にある。施設内にデイサービス、訪問介護、住宅型有料老人ホーム、配食センター等があり、職員間の交流もある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 公益社団法人福岡県介護福祉士会, 福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階).

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Criteria (e.g., 1. ほぼ全ての利用者が), and Evaluation Result (e.g., 58, 65, 66, 67, 68, 69, 70).

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践している。 職場会議で読み合わせを行っている 理念を掲示しいつも確認出来るようにしている	理念にある、のんびり・楽しく・その人らしく、どんな時も急がずゆっくりとした支援を管理者と職員は心がけている。職員会議や、ケア会議時に支援を振り返る機会がある。理念は確認しやすい場所に提示してあり、常に意識しながら日々の支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の廃品回収や公園清掃に参加し交流している 地域の敬老祝賀会に入居者と参加したりして交流している	地域の敬老会には、ケア会議に参加している民生委員、自治会会長の参加があり交流をしている。近隣の散歩で、利用者が地域の方との挨拶や会話ができるように職員が間に入って支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催やセンター内サロンを週1回開催し、地域の方に向け話す機会を設け活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度入居者状況を報告し、意見交換を行い、会議で報告しサービス向上に活かしている。	会議には2校区の正副自治会長や民生委員・地域包括支援センター・産業教育カウンセラーや退職した看護師に声を掛け、出席率も高い。利用者の状況説明を行うことで、支援方法の助言を受け、職員会議の際のケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括の担当者に運営推進会議を通して報告し、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの連携で運営推進会議には、センターの職員が交代できている。介護保険課とは、情報開示やわからないこと等をメールでやり取りをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職場会議で確認し、年に2回社内研修や伝達研修、動画研修を行い、身体拘束について学び、身体拘束を行わずケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は入職時にしており、ケア会議時や母体法人が開催している合同研修に管理者が参加し、職員へ伝達研修をしている。職員は身体拘束の対象となる内容を把握し、常にケアの際に意識し職員間でも声を掛け合う体制がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎月の職場会議で確認したり、社内研修を行い、虐待について学び、虐待を見逃さないよう注意を払い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の入居者が成年後見制度を利用し、ご家族が後見人のなされている。研修参加や伝達研修を行い学んでいる	管理者・ケアマネジャーが研修に参加している。母体法人が開催する研修にも参加し、職員会議で伝達研修を行っている。家族から相談があれば、管理者に繋ぐ体制が出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、了承を得て、署名捺印を頂いている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族から意見要望があれば職場会議、ケア会議で報告し共有している。運営推進会議、管理者会議でも報告、相談し、運営に反映している	利用者の意見は職員が日々の支援の中で、対話や様子を観察し意見を受ける体制がある。家族からは、面会時や電話で意見を聞いている。転倒させないために車椅子を使用の要望があり、歩くことが出来る状態であれば、なるべく歩くように職員が付き添うケアを説明し理解してもらった事例がある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を口頭や連絡ノートで日常的に聞き取り、職場会議で話し合い、必要に応じて管理者会議で報告相談している。その結果を職員に報告し反映している	職員は、日々の業務で改善や提案を常に発言しやすい環境にある。管理者も、業務の負担軽減を常に把握し、ノーリフトケアを早く取り入れ、器具の購入をしている。必要な購入品のカタログもいつでも見れる状況にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者からの報告で状況把握している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用に当たり、性別、年齢等を理由に大正から排除していない。試用期間を1～3か月設け適応出来るかをみている。	職員はシフトを決める際に希望休暇が言いやすく、子育て世代の職員も学校行事の参加もできている。資格取得も積極的に支援がある。職員採用で、外国籍の問い合わせがあれば受け入れる体制がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時研修をはじめ研修参加、職場会議での伝達研修や読み合わせを行い取り組んでいる	職員は年1回法人が契約している外部のリモート研修を取り入れ、今年度は外部研修も参加している。利用者の日常のペースに寄り添い無理をしないケアを目指している。職員同士の意見交換もケア会議の際に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて研修に参加するようにしている。外部研修にも参加出来るように勤務体制の工夫をしている。ケアリーダーが取りまとめを行っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域施設の会圏域の勉強会、外部研修への参加、法人施設間研修で、交流の機会を持ち、情報交換している。WEB研修に参加している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者、ケアリーダー、看護師で対応し、面談で本人や家族、以前利用していたサービスの関係者に話を聞いて関係作りに努めている。入居前にお試し入居が出来、本人が必要な事を関わりながら見つけている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者、ケアリーダー、看護師で対応し、本人、家族に話を聞いて関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話を聞き、状況、状態を把握し、その方らしく生活するための支援を検討し、対応に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は本人にしてもらう。スタッフは寄り添い、ご本人の動き、表情を見て、待つ事や必要な支援を行う事で、関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の挨拶を基本として、状況や様子を伝えている。計画見直しの際家族の要望を聞き、必要な支援と一緒に考え支援する関係を築いている。家族が不安にならないよう近況報告を行い、病院受診の際は同行をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親類、友人へ年賀状を送って近況を報告している。年齢、介護度が上がり、難しくなっているが、他者とのコミュニケーションの対応など支援に努めている。	家族との外出は要望があればでき、以前から通っていた美容院への送迎の依頼があれば、職員の支援ができています。家族などの面会もできるようになり、交流の制限をしないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を考慮しながら関りが持てるよう支援している。レクや好きな事を通じて交流し支え合えるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方後こちらから接する事はないが、要望があれば相談や支援に努める。ご家族が参加されていることも劇場などの関りを続けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話を通して把握に努めている。言葉が発せない方もご家族との話し合いや本人の表情や言葉にならない声をとらえながら本人本位になるよう検討している	職員は利用者と一緒に過ごす時間を設けている。要望や昔の経験談を聞き取り、会話が少ない方は、本人の表情から今の想いをくみ取る体制があり職員間で情報共有が出来ている。都度家族から本人のことを聞く機会を設け、本人の意向の把握を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、利用施設、担当ケアマネなどに聞き取りをし把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活に関わる事により心身状況、出来る事の現状把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中での会話や家族への聞き取りや相談、職員全員のモニタリングで、よりよく暮らす為に、今出来る事を話し合い、介護計画を作成している	2ヶ月に1回モニタリングを行い、月1回の会議で職員全員でケアの検討を行っている。病気の進行や状態の変化に応じ、計画書の見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別サービス提供記録に記入し、職員間で記録と口頭で情報を共有。ケア会議でも意見交換を行い、情報共有し実践や介護計画見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方にお住いのご家族や転勤の相談、健康状態に応じ本人ご家族の状況を把握し、その時々に対応出来るように努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事、センター行事に参加し一人一人暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望によりかかりつけ医を選んでもらう。月2回の定期的な往診で検尿や血液検査を受けている。急変時は24時間ドクターの指示を仰ぎ対応している。状況報告を家族へ行っている	本人の入居前からのかかりつけ医が継続して往診に来ることもできる体制がある。他科受診する際は、本人の状態を把握している職員が付き添い、その後も継続受診が必要な場合は家族に付き添ってもらうこともある。歯科往診や薬局の支援もあり、確実な服薬もできている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がケアに入り日常で体調管理を行っている。日々の気づきを報告し合い、連携し情報共有をし、支援につなげている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と医療機関との情報提供を行っている。退院時カンファレンスに参加したり、必要な連絡を取り合い、退院後安心して生活できるように、経過受診等情報交換し関係を築いている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、心肺停止の場合、看取りについての指針を作成し、家族へ説明、了承、同意を得ている。看取りの場合、家族、主治医、職員間で連携しチームケアに取り組んでいる。	入居契約時に書面を用い、終末期の対応ができる説明をしている。職員への研修を定期的に行い、看取り時に職員が落ち着いて支援できるように医療と連携し、管理者も同席するなどの体制ができている。家族が最期の時を一緒に過ごせるよう宿泊や食事もできる部屋を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回救命講習を受講し、心肺蘇生、AEDの使用方法を学んでいる。急変や事故発生時の対応はマニュアルを配布し全職員で対応出来るようにしている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、職場会議でマニュアル読み合わせを行い、避難出来る方法を身に付けている。地域の方へ参加の案内をし協力体制を築いている。BCPを策定し、地域の方へ渡している。	災害時対応マニュアルを整備しており、ハザードマップの周知もできている。建物自体が、近隣の方の避難場所に選定されており、災害時は協力体制があり備蓄品の見直しも随時している。事業所全体が協力できる体制が整っている	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のその時の気持ちや状態を察し、トイレの声掛け等、耳元で分かりやすい言葉、単語でジェスチャーを使い、人格や思いを尊重しプライバシーを損ねないよう働きかけている	共有空間では、職員は、本人のプライバシーに配慮するため声の調整や言葉を選んで声掛けをしている。居室でおむつ交換をする時は、肌の露出部分が本人に見えないようブランケットを掛け、羞恥心への配慮をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重し、言葉の裏にある思いを感じ、選択しやすいよう声掛けを行ったり、誘導しないよう、自己決定出来るよう働きかけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを常に意識し、無理をさせないように配慮している。生活歴を把握し本人に合わせたペースで過ごせるよう、視線を合わせ、のんびりゆっくりと希望に沿って支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や天候に合ったものを考慮し、本人に衣類の選択をしていただくよう声掛けを行い、支援している。訪問理美容や近所の床屋へ希望があれば付き添っている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳、食器洗い等出来る事は一緒に行う。メニューを伝えたり、嚥下状態に合わせ、食べやすい形状や食器を工夫し、いつまでも口から食べる事が出来るよう支援している。	食事は厨房から大皿で運ばれ、利用者と一緒に個々のお皿に盛り付けをしている。夕食時は味噌汁を職員と一緒に調理しており利用者の楽しみになっている。歯科医の訪問もあり嚥下状態の把握ができ、利用者が安全に食事ができる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフで共有しながら食事量、水分量の確認を行い、体調や摂取量に応じて調整している。一人一人の嚥下状態に合わせ、食事形態や量を工夫している。主治医に相談し栄養補助飲料などの補給を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声掛けを行い毎食後実践している。介助の方はモアブラシや口腔ケア綿棒を使い個々に応じた支援を行っている。必要に応じて歯科往診を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排尿パターン間隔に合わせ、誘導を行っている。本人の尿意、便意を大切にしている。夜間おむつの方も日中は出来るだけトイレでの排泄を実践し支援している。	排泄時の声掛けは本人にあわせながら工夫している。排泄リズムを把握することで使用するパットの枚数が減らせるなど自立に向けた支援ができています	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ごぼう茶、果物を使ったジュース、ヨーグルト等提供。散歩、テレビ体操、廊下歩行など声掛けし、スタッフと一緒に運動をおこなっている。主治医と相談し苦痛軽減のため、下剤のコントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、個々の体調、タイミングをみながら、週2回入浴出来るよう支援している。便汚染などあった場合決まった曜日でも入浴の支援を行っている	本人の生活リズムに合わせて入浴の時間帯や曜日を決めていますが、その日の気分に合わせて変更ができるよう柔軟に対応している。入浴中は歌を歌ったり昔の話をしたりして、楽しい時間となるよう支援している	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心、安全に配慮し、生活のリズムを整えるよう支援している。24時間サイクルでサポートし、午睡やリクライニング椅子を使用し日中も休息を取り、睡眠導入剤に頼らずに、眠れるよう支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病歴や薬について情報を共有し、必要最小限の服薬を主治医と相談し、服薬ミスのないようダブルチェックを行っている。服薬後の様子確認をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品の買い物や調理、それぞれに合わせて出来る事を、無理なく声掛けをし、楽しく有意義に過ごせるよう支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は出来るだけ散歩やドライブに出掛けるよう支援している。初詣も個別に参拝に出掛けている。家族と食事に行ったり、協力しながら支援している	近くの公園へ花見に行ったり、ドライブで車窓からの景色を楽しむ時間を設けている。個別にコンビニエンスストアに好きなものを買に行くこともある。家族からの希望があればいつでも外出できる体制がある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる方は一緒に買い物に出かけ、商品を選んでもらい、支払いが出来るよう支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり、手紙や年賀状は手渡し、代読、代筆し支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気を行い、清潔を保ち、飾りつけや花を飾り、季節をかんじられるようにしている。日めくりカレンダーを用い、毎日めくってもらい、日にちの確認を行っている。	木目調の床が暖かさを醸し出し、リビングや廊下など広い空間が確保されている。季節の花を飾るようにしてあり、四季の移ろいを感じられるようにしている。食堂のテーブルは少人数で1台を使用できるようにしており、感染症対策にも配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の好みに合った場所でゆったりと好きな事をしながら過ごせるよう工夫している。不調にならないよう席を配慮している。コロナがあったので、少人数の席にし都度移動し対話出来るよう工夫している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合いながら、安全面に配慮し、思い入れのある物を使ってもらい、居心地よく過ごせるよう工夫している	転倒の危険がないように家具を配置している。持ち込まれるものは本人が好きなものや、慣れ親しんだものを中心に、家族に相談して決めている。本人が居心地よく過ごせる空間となるように支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に名前を貼り、出来る事を見守り、自由に自立した生活が送れるようくふうしている。夜間暗い外が見えると不安を覚える方もいるので、のれんを付け安心出来るよう工夫している		